

岸和田丘陵地区のまちづくりルール（案）

岸和田丘陵地区まちづくり協議会

平成25年12月2日（月） 第12回 岸和田市丘陵地区整備機構準備会 提出資料

本資料の目的

- まちづくりの理念の共有
- 提案型まちづくりルールの一必要性の共有
- 今後、まちづくり協議会でまちづくりルールづくりを進める際に参考となる基礎資料

本資料の構成

1. これまでのふりかえり

- 丘陵地区のまちづくりの理念
...p.3~4
- 丘陵地区の基本コンセプト
...p.5

2. まちづくりルールの提案

- 丘陵地区が目指すまちの基礎
...p.7
- 丘陵地区のコンセプト実現に向けて
...p.8
- まちづくりルールの提案（例）
...p.9~22

まちづくり
ルールの作成へ

1 . これまでのふりかえり

岸和田丘陵地区のまちづくり（案）

～ 神於山と一体的に地域資源を活かしたまちづくり～



丘陵地区のまちづくりの理念（まちづくりを考える基本となる方向性）

過去

現在

未来

① 丘陵地区の環境構造の原風景

「自然と人の営みが一体となった環境」

- ・ 神於山からの尾根筋や牛滝川の水系。
- ・ 新旧牛滝街道、街道集落、谷筋の農地利用、尾根筋の里山林利用。

手のひらを
広げたような
神於山の尾根筋



② 丘陵地区の環境構造の現状

「外環状線等による環境の分断」

- ・ 里山林や農地の細分化。
- ・ 放置林、竹林、休耕地の増加に伴う生態系の変化。



③ 丘陵地区のまちづくりに求められるもの

「神於山と一体となった環境構造の再生」

- ・ 神於山からの緑地の連続や水の流れの創出。
- ・ 牛滝街道等の地域の歴史資産の保存・活用。
- ・ 周辺地域との連携。



丘陵地区の基本コンセプト（まちづくりの基本となる方向性）

①丘陵地区の資源の保全と活用

【自然、人文、人工等の様々な資源】

【自然的要素】

- ・神於山、牛滝川、春木川
- ・クスノキ、ウバメガシ、コナラ等の植生や、オオタカ、フクロウ、トンボ等の生態系



農地の背景にある神於山



牛滝川

【人文的要素（文化等）】

- ・街道、里道、神社や祠、石造物、果樹園、農地、ため池、周辺集落
- ・「馬場台」「六万坊」等の旧字名、伝承



菅原神社



果樹園

【人工的要素】

- ・蜻蛉池公園、道の駅、近畿職業能力開発大学校等の施設
- ・外環状線の交通アクセス

【その他の要素】

- ・神於山から大阪湾までの大眺望

②丘陵地区をつくるキーワード

【こんなまちになったらいいなあ】

【交流・コミュニケーション】

- ・地区内の様々な人のコミュニケーション
- ・周辺集落の人とのコミュニケーション
- ・健康

【安心・安全】

- ・食の安全、地産地消
- ・防犯、防災

【地域資源との連携・活用】

- ・共存することによる相乗効果
⇒地区内の資源循環、活性化、田園都市
- ・付加価値の創造

【共存・共栄】

- ・持続的なまち
(時代背景や社会情勢に対応)
- ・里山保全

【仕組みづくり】

- ・地域資源を活かした創造と発信をしていく

③丘陵地区の3つの基本コンセプト

【持続可能な“まち”を創る】

人々が元気で快適に生きがいを持って暮らせるまち

地形を活かし、豊かな自然に溶け込むゆとりのある住宅地の創出、地区の活性化につながる地域コミュニケーションの創出

活力があり地域を輝かせる産業があるまち

地域資源と有機的に連携できる企業の誘致、農業基盤の強化と安全安心な農作物の提供

地球と人にやさしい自然環境があるまち

蜻蛉池公園や神於山との連携を考慮した自然資産の保全と活用

2. まちづくりルール の 提案

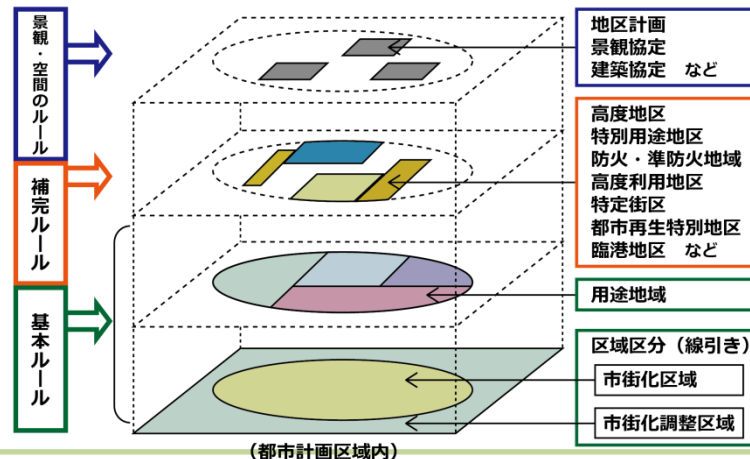
丘陵地区が目指すまちの基礎（規制型まちづくり+提案型まちづくりへ）

● 規制型まちづくりルール

・・・みんなが守らなければならない最低限のルール

- ・用途地区
- ・敷地面積
- ・建築物の大きさ
- ・セットバック
- ・緑化率など

全国どこへ行っても使える一般的なルール



【付加】

「規制型」だけでは、丘陵地区“らしさ”を実現する要素が不十分です。

● 提案型まちづくりルール

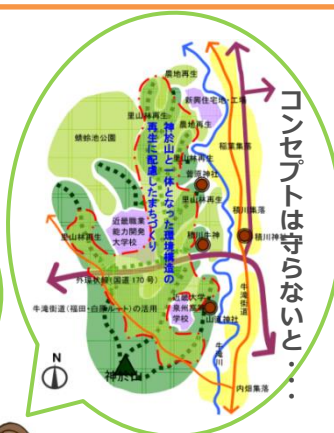
・・・より良いものを目指す丘陵地区独自のルール

- ・みんなで共有すべきまちづくりの理想
- ・配慮や心づかい
- ・丘陵地区“らしさ”のアイデアなど

丘陵地区独自の“ここだけ”のルール



フクロウがいるまち、いいね



全ての人が守るルール

内容は2段階

大勢の人が守ればさらに良いものになるルール

丘陵地区のコンセプト実現に向けて

目指すまちの基礎

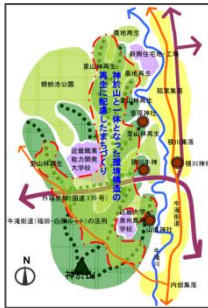
規制型まちづくり

提案型まちづくり

①丘陵地区の理念や 3つの基本コンセプト

【理念】

- ・ 神於山と一体となった環境構造の再生



【3つの基本コンセプト】

- ・ 人々が元気で快適に生きがいを持って暮らせるまち
- ・ 活力があり地域を輝かせる産業があるまち
- ・ 地球と人にやさしい自然環境があるまち

②コンセプト実現に必要な要素

【“丘陵地区でなければ”という付加価値】

- ・ 地区に関わるさまざまな主体が連携し、地域資源が循環できる“まち”
- ・ 周辺集落の構成要素や伝統の継承など地域資産を活用する“まち”

【自然との付き合い方】

- ・ トンボやフクロウ等の生態系や植生といった自然資産と共生できる“まち”
- ・ 自然景観と調和し、神於山から広がる尾根筋を活かして緑の連続性を再生する“まち”

【配慮と心づかい】

- ・ 互いの生活環境、安全・安心への配慮や心づかいがなされる“まち”
- ・ 個々の景観だけでなく全体の景観にも配慮や心づかいがなされる“まち”

【マネジメント体制】

- ・ 住、商、工、農、自然が共存・共栄し、持続的に発展できる“まち”

③各主体の行動指針（例）

ソフト面

住民 積極的な地元消費、竹材の活用、食物残さの堆肥化
商工業者 農や自然素材（竹）とコラボした展開、地元雇用
農業者 地域循環の要。住、商工へ農産物提供や技術指導
自然 竹材の提供や、神於山、神社、石碑等の物語の継承

ハード面

住民 周辺の環境や集落のまちなみと馴染む樹種や素材の活用
商工業者 主体同士の連携につながる賑わい空間の創出
農業者 周辺との交流拠点の整備、伝統的里山景観の創出
自然 神社や鎮守の森、石碑・地蔵等の地域景観や環境の保全

ソフト面

住民 雨水や自然エネルギーの利用、近隣のため池のトンボ保全
商工業者 雨水等の利用、竹林・里山・保全林等の環境CSR
農業者 水系の保全・活用、周辺の生態系へ配慮した農法
自然 貴重生物の周知と保全活動、環境学習等の活用

ハード面

住民 神於山の尾根筋の再生を意識して積極的に緑化
商工業者 緑の連続性に配慮した緑化や賑わいの場の創出
農業者 景観木や水系に配慮、斜面を活かした農地景観の整備
自然 自然活用道を核として緑のネットワークを形成

ソフト面

住民 農地や生態系に配慮したペットやゴミの管理
商工業者 自然や営みに配慮した環境管理、交通動線の配慮
農業者 自然や営みに配慮した農作業、安全安心な農産物の提供
自然 適切な保全・活用・維持管理で、周辺の暮らしや営みに配慮

ハード面

住民 開放的な沿道空間、周囲に馴染み一体感を感じるまちなみ
商工業者 周囲に馴染む建物や賑わい空間、沿道緑化のデザイン
農業者 自然景観に馴染む付帯施設や柵、農道のデザイン
自然 都市や農と馴染む林縁部や水路空間の維持

ソフト面

住民 まちづくり協議会への参加
商工業者 マネジメント組織の整備と計画（だれが、いつ、どこで、何をやるのか、何が
農業者 必要か、10年先、20年先を見すえた計画）
自然 外部に向けた積極的な情報発信

ハード面

目指すまちの将来像実現へ向けた具体的なアイデア

1. 岸和田丘陵地区全体 ソフト面のアイデア（案）

～「丘陵地区ならではの人の連携」を目指して～

丘陵地区に関わるさまざまな主体が「農」を中心に連携し、地域資源が循環できるまちを目指しましょう。



2. 岸和田丘陵地区全体 ハード面のアイデア（案）

先に
大阪湾

～「神於山と一体となった緑の連続性の再生」を目指して～

神於山から広がる尾根筋を活かして地区内の緑化に取り組み、緑の連続性を再生しましょう。

神於山から大阪湾までの
緑の連続性の再生

蜻蛉池公園

【自然活用地】

神於山の尾根筋が保全される自然活用地区を核として「緑のネットワーク」を形成する
周囲のゾーンでは、自然活用地区の植生や生態に配慮しながら緑の連続性を図る。

【住宅地】

神於山の尾根筋の再生を意識しながら、積極的に緑化する
樹種は、郷土種や、周辺集落で用いられる樹種を参考にする。

地域の歴史を伝える
神社・石碑等を
緑地と共に保全

【農地】

景観木や水系（ため池や水路
等）に配慮する
斜面地形を活かして農地景観
を整える

積川牛神

神於山からの尾根筋

【商・工業地】

地区全体の緑の連続性に配慮した緑
化や、人々の賑わいの場を創出する

神於山

3. 住宅地のまちづくりアイデア（案）

一体感のあるまちなみに配慮しながら、「神於山の尾根筋の再生」を目指して積極的に緑化しましょう。

【尾根筋の再生を意識した緑化】
● 神於山のかつての尾根筋が通る場所を郷土種で緑化しましょう。

【緑豊かな沿道づくり】 沿道＝道路沿いの空間
● 建築物のセットバック部分に、樹木や花で緑化すると、みんなの共有空間（道）が緑であふれます。
● 緑化には、郷土種や周辺集落で用いられる樹種を用いると地域になじみます。

【住宅地の規制型ルール】

- ・ 建築物の建ぺい率50%
- ・ 高さ10m以下
- ・ 壁面後退1m
- ・ 緑化率20%以上 等

【開放的な沿道づくり】

- 道路と敷地の高低差を、自然的な素材の法面や擁壁にすると、沿道の圧迫感を緩和できます。
- 垣根や生垣に隙間やスリットをつくり透視性を上げると、開放性を得られます。
- 住民の視線を感じる沿道は、犯罪防止にも繋がります。

住宅地のまちづくり事例（案）

例1. 丘陵地区らしさをもった 開放的な沿道づくり

緑あふれる開放的な沿道となるよう配慮し、公共の空間を豊かにしましょう。



←道の雰囲気はまちのイメージそのもの。一般的なブロック塀のまちなみでは丘陵地区らしさが感じられない。



←周辺集落の外構デザイン。
樹種や石垣の要素を活かせば「らしさ」が出る。



↑→開放性をプラスする。



例2. 擁壁や法面の配慮

擁壁や法面のデザインや積極的な緑化に取り組みながら、道を歩く人に配慮しましょう。



←一般的なコンクリート擁壁。道を歩く人にとっては、擁壁の圧迫感を感じたり、無機質に感じたりするまちなみ。



←コンクリート擁壁をセットバックさせた上に緑で隠しているので、敷地の高低差からくる圧迫感はあまり感じられない。

→セットバック部を緑化させて法面をつくる。



→道から直接法面をつくり緑化した事例。道幅が広く感じられる。

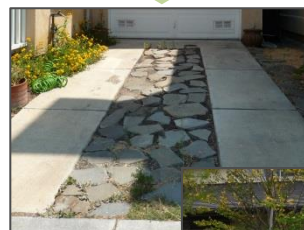


例3. 駐車スペースの配慮

どのお宅にも必要であろう駐車スペース。地面の緑化やカーポートのデザインに配慮することで、景観がより良くなります。



←一般的なコンクリート地面の駐車スペース。



←コンクリート地面に石や緑など、少し自然的な要素を加えると、駐車スペースの雰囲気が変わる。

→落ち着いた色合いのカーポート。まちなみに馴染むカーポートを選ぶ。



→敷地の前面全てを駐車スペースにしているものの、緑化や自然的な素材で、雨水が浸透する環境にやさしいデザイン。



4. 商業地のまちづくりアイデア（案）

緑の連続性に配慮しながら、「都市や農な様々な主体の交流拠点となる賑わい空間」を目指しましょう。

【賑わい空間づくり】

- 沿道空間は賑わいの場として積極的に活用しましょう。
- 地域の資源や人材を活かしたおまつり、イベント等を実施し地域の賑わいを創出しましょう。

【緑の連続性やまちなみの連続性に配慮した沿道のしつらい】

- 開放的な沿道空間で人々を呼び込みましょう。
- 緑化には周辺景観と調和する郷土の樹種を用いましょう。
- 道路と敷地の高低差を緩和させる工夫として、法面の緑化を積極的に進めましょう。
- 景観に馴染む看板や広告物のデザインとし、まちなみの連続性を創出しましょう。

【商業地の規制型ルール】

- ・ 建築物の建ぺい率60%
- ・ 高さ制限
- ・ 壁面後退2m
- ・ 緑化率10%以上 等

商業地のまちづくり事例（案）

例1. 賑わいづくり

地元農産物や地元ブランドの提供の場としての賑わいや、お祭り、イベントの実施で地域と連記した賑わいを創出しましょう。

人が集まる外部空間は積極的に緑化し、無機質感を感じさせない、憩いの場を創出しましょう。



←↓直売所やマルシェ等で採れたての農産物が得られる。レストランで味わえるのは地元の味。



←道を歩いていると、商業地の賑わいにつられて入ってしまう、沿道や入口のデザイン。



←人々が集まり交流できる場がある。



→時にはイベントやお祭りで、地域が一体となって盛り上がる。

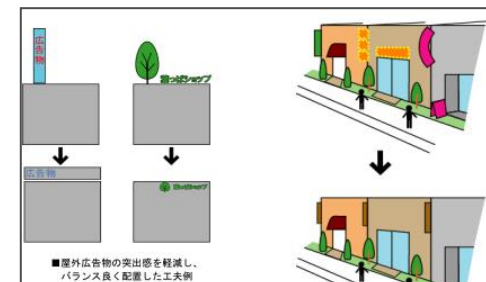


↓お客さんのための広い駐車場は緑化して雨水が浸透するようにすると環境にも優しい。

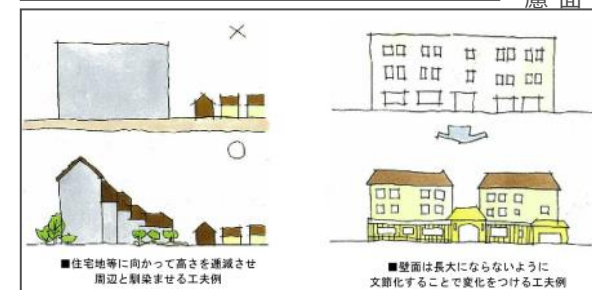
例2. 景観への配慮

賑わいづくりの一方で、周辺に馴染むよう景観づくりにも配慮しましょう。

看板や広告物のデザイン、人々が圧迫感を感じない建物デザインなどに工夫が必要となってきます。



■屋外広告物の地色と文字色を反映させることで高彩度の仕様を抑えた工夫例



←看板や広告物は奇抜な色合いやデザインを避け、地域に馴染むデザインを心がける。

↓お客さんや周辺の住民が憩いやすい建物壁面の大きさや色彩に配慮する。

5. 工業地のまちづくりアイデア（案）

地区全体の緑の連続性に配慮した緑化に取り組み、「緑豊かで自然環境と共生する工業景観」を目指しましょう。

【緑豊かな沿道空間】

- 緩やかな傾斜と緑化で、周辺環境と道行く人々への心づかいを感じさせます。
- 擁壁を造る場合は緑で隠しましょう。
- 周辺景観に馴染む看板やサインはまちなみの連続性を創出します。



【環境・景観への配慮】

- 敷地内に、豊かな緑量を確保しましょう。
- 建築物の壁面に変化を付け、ボリュームを小さく見せると道を歩く人が圧迫感を感じません。
- 室外機は景観に配慮しましょう。
- 排水・排煙等を適切に処理し、周辺環境に配慮しましょう。



- 工場に対するイメージを良くすることで、地域の人々に業務に対する理解や共感、親しみを持ってもらえ、地域との連携が取りやすくなります。

【操業のアイデア】

- 地域資源（農、竹材等）と連携した商品開発や研究等の効果も期待できます。

【工業地の規制型ルール】

- ・ 建築物の建ぺい率60%
- ・ 高さ30m以下
- ・ 壁面後退2m
- ・ 緑化率10%以上 等



工場地のまちづくり事例（案）

例1. 擁壁や法面のデザイン

広い敷地を持つ工場地では、敷地と道路の高低差も大きくなります。緑化に取り組みながら、沿道を歩く人にも配慮しましょう。



←擁壁の壁面緑化で緑のボリュームを感じさせるデザイン。



→こんもりとした樹木で、緑のボリュームを感じさせるデザイン。



←法面の2段構えで高低差を緩和させたデザイン。



↑樹木が少なくすっきりとしたデザイン。

→階段状の法面で圧迫感を感じないデザイン。



例2. 地区内連携

地区内の自然資源（竹）や農業とのコラボレーションを図る等、丘陵地区独自の事業展開の可能性にも積極的に取り組みましょう。



←↓CSR活動や農産物の加工、木材の熱源利用等、様々な可能性がある。



←↓竹材の様々な加工の可能性。



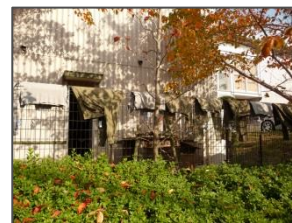
※参考：（仮）岸和田 Green Village構想

例3. 敷地内外の景観の維持管理や安全への配慮

入植時にきれいに整えられた景観でも、維持管理を怠るとまちなみの質下がります。また周辺に商業地や住宅地があることから、大型車の走行時は騒音や安全に配慮しましょう。



←きちんと維持管理された事例。



↑←敷地内外の使い方が管理不足であったり、緑地の維持管理がなされていない事例。

6. 農地のまちづくりアイデア（案）

農地には“地区内循環の要（かなめ）”としての重要な役割があります。

自然環境に配慮しながら「丘陵地区の人と自然の営みの象徴としての農地景観」を目指しましょう。

【里山景観に馴染みやすい農道】

- 農道は、土系効果舗装や脱色アスファルト舗装など周辺の里山景観と馴染ませましょう。
- 水路の維持管理にも努めましょう。

【神於山からの斜面地形を活かした農地景観】

- 自然的な法面を創出しましょう。
- 景観木を活かしながら、景観を創出しましょう。

【その他のアイデア】

- 境界部に柵を設ける場合は周囲に馴染む工夫をしましょう。
- 地元の石や季節の草花は里山的・文化的な景観を創出しましょう。
- 周辺の人々と営農者が交流する拠点をつくり活用しましょう。
- 安全安心の農作物を提供しましょう。

【農地の維持管理】

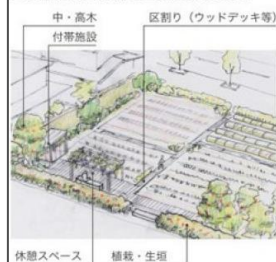
- 美しく整えられた付帯施設や農機具は景観の質を向上させます。

農地のまちづくり事例（案）

例 1 . 地域の人たちとの交流の場づくり

農を中心とした地域循環に取り組むためには、地域の人たちとの連携が欠かせません。生産者の顔の見える農業、農業に対するアドバイス等、交流を深める場づくりにも取り組みましょう。

修景のアイデア
デッキ材、ブロック等を敷設した区割りや営農者や住民が利用できる休憩スペースの設置など修景の工夫に努めます。



← ↓ 交流の場を兼ねた休憩スペースの設置や人々が歩けるウッドデッキ等の工夫。



↓ 防災農地の例。様々な人との連携が災害に強いまちを創る。

◆災害時の農地利用◆

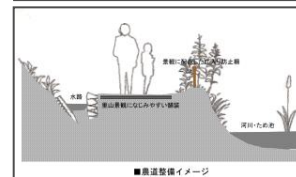
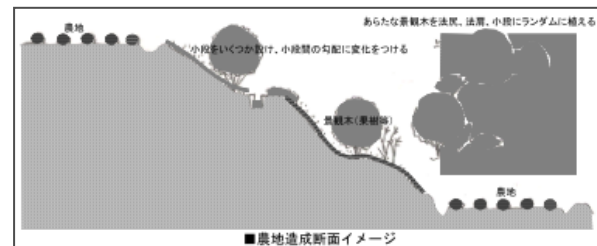
- 緊急避難地、延焼遮断帯、緊急資材置場、仮設住宅用地、ヘリポート等の防災空間が確保できる。
- 面積が小さくても、軽微な災害時の「一時的な避難地」、避難や火の元の心配、忘れ物を取りに帰れる等、「目の届く距離の避難地」となる。
- 消火活動や負傷者の搬出等、地域住民が行う自主的災害救助活動の場となる。
- 農地を中心とした地域コミュニティが活かされる。
- 既設の農業用水路、井戸等の用水が消火や生活雑用水に活用できる。



↑ 管理小屋兼休憩スペース。採れたての農産物を味わえる。

例 2 . 里山景観づくり

斜面地に棚田的に農地がある際、周辺の里山の景観に馴染むよう農道等を整備しましょう。



↑ 景観木の活用等、自然的な法面を創出。里山の景観に馴染みやすい農道の舗装や立ち入り防止策等の景観面の工夫。



← 周辺の自然景観に馴染む農地。

例 3 . 農地や付帯施設の維持管理

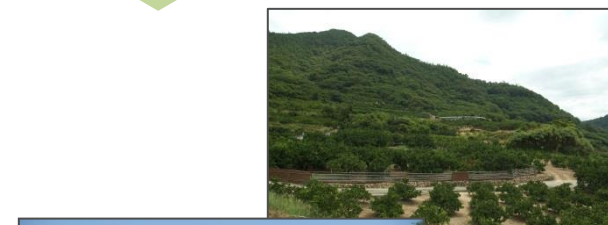
農作業小屋やビニールハウス、農耕機等は営農に欠かせません。維持管理に努めることで美しい農地景観を創出できます。

付帯施設の設

付帯施設の維持管理
営農に必要なビニールハウス等の施設は、素材やつくり、配置に配慮するとともに、景観を阻害しないために維持管理に努めることが望まれます。



← ↓ 付帯施設等の適切な維持管理や清掃に取り組む。



↑ きちんと維持管理された付帯施設や石積み、柵によって美しい農地景観が創出される。

7. 自然活用地のまちづくりアイデア（案）

自然活用地は、丘陵地区の「緑のネットワーク」の形成や、生物多様性を保全する上で特に重要なエリアです。身近な自然を守り、親しみ、活用する「人と自然の共生の場」を目指しましょう。

【保全のアイデア】

- オオタカやフクロウ、トンボ等の生態系や、郷土の植生を保全するために森やため池を整備しましょう。
- 案内板や学習会等で貴重な生物を周知し、保全への意識を高めましょう。
- 地区内・地区外が協働で、神於山を基盤とした丘陵地区の自然環境を守りましょう。
- 神於山や神社、石碑等の物語を継承し、地域資産として保全しましょう。

【活用のアイデア】

- 竹林や里山、水系（ため池やビオトープ）等の自然環境を活かしたレクリエーション、イベント、ワークショップを行い、自然を楽しみましょう。
- 環境学習、環境保育で自然に親しみましょう。
- 他地域と連携を取りながら竹林の管理と竹材を活用した取り組みをしましょう。

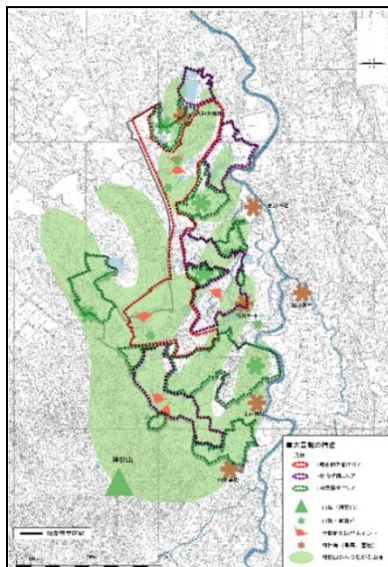
自然活用地のまちづくり事例（案）

例1. 「緑のネットワーク」を形成する核となる

自然活用地は、主に神於山から広がる尾根筋にあり、「緑のネットワーク」を形成する核としての役割があります。

神於山や神社や石碑など、丘陵地区の歴史を今に伝える地域資産を活かしながら環境づくりに取り組みましょう。

→ 神於山からの尾根筋と神社、自然活用地（緑の破線）の位置図。



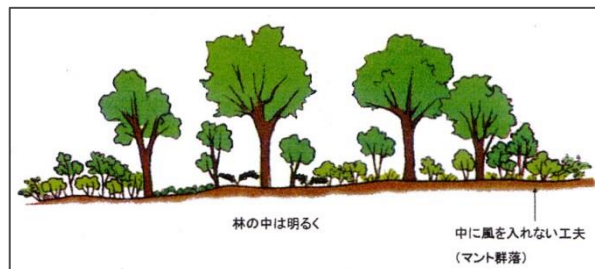
↑ 神於山



↑ 菅原神社

例2. 貴重生物保全のための里山管理

丘陵地区にはオオタカやフクロウ、トンボなど、里山ならではの様々な生物が生息しています。里山の生態系を保全するために、里山やため池の環境保全に積極的に取り組みましょう。



↑ 理想的な里山の姿。
柴刈りをして林の中に光が入るようにする必要がある。

→ ↓ 生物の住処を保全するため、専門家の指導のもと、里山やため池の管理を行う。



例3. 自然環境を活用した学びの場

自然環境の保全や竹材等の自然素材を活用するためには、まず自然に親しみを持つことが重要です。環境学習やレクリエーション等で大人も子供も楽しむ機会をつくりましょう。



← 環境学習や親水空間として整備されたビオトープ。

→ 「森のようちえん」で自然に触れたり、農業体験をする子どもたち。



↑ → ネイチャーアートで自然を楽しむ。



8. まち育てのアイデア（案）

住、商、工、農、自然等、地区に関わる全ての人はまちづくり協議会に参加し、これからまちを育てていきます。
まちを良くするアイデア出しや、対話によって問題・課題の解決、更に外に向けて地域の良さを発信しながら、
“自慢できるまち”を育てていきましょう。

まち育ての基盤となる 組織を整える

まちづくりを進めるうえで、マネジメント組織が必要となってきます。

- ・だれが、いつ、どこで、何をするのか、何が必要か
- ・資金
- ・10年先、20年先を見すえた計画等



← 丘陵地区のまちづくり理念。
理念やコンセプトをどのように実現していくか、様々な人が
集まり知恵を出し合っていく。

まちを更に良くするために 学び、考え、話し合う



← まちづくりや家づくりについて専門家から
アドバイスを受ける居住希望者。

← 居住を希望する人たちが
ワークショップで意見を
出さう。

多くの人に知ってもらい、盛り上げるために 情報を発信し共有する



← ホームページで地域の情報を発信する
事例。

← ワークショップやイベント等の活動
掲載し、住民の情報共有の場ともなる。

丘陵地区らしさを考える際の事例集（案）

客体 主体	住	商	工	農	自然	全体
住	【ゾーン内での連携】 ●コミュニティイベント、サークル活動等への積極的参加 ●声かけ運動や防犯パトロール、防災訓練等で、安全安心への配慮 【ゾーン内での配慮・心づかい】 ●ゴミの管理やペットマナー、騒音等、互いの暮らしへの配慮 ●個々のプライバシーの確保	【連携】 ●積極的な地元消費 【配慮・心づかい】 ●アドプトフォレストへの理解と協力	【連携】 ●社宅・寮 【配慮・心づかい】 ●アドプトフォレストへの理解と協力	【連携】 ●積極的な地元消費 ●地野菜レシピの発信 ●食物残さの堆肥化と農地利用 【配慮・心づかい】 ●ゴミの適正な管理 ●ペットマナー	【連携】 ●竹材の活用（エネルギー、景観要素として等） ●雨水の活用（緑地への散水等）による水資源の節約 ●自然エネルギー（太陽光等）の活用 ●近隣のため池のトンボ保全活動 【配慮・心づかい】 ●ゴミの適正な管理で野生動物に配慮	【連携】 ●地産品の積極的消費と生活への利活用 ●地域の取り組み、イベントへの積極的参加 【配慮・心づかい】 ●連携・創造のまちづくりに対する意識づけ
商	【連携】 ●ガーデニング、農園関連のショップ ●雇用機会 【配慮・心づかい】 ●買い物客の動線の安全性に配慮	【ゾーン内での連携】 ●協働の賑わいづくり 【ゾーン内での配慮・心づかい】 ●互いの賑わいづくりへの配慮	【連携】 ●地元企業の地元商品の取り扱い 【配慮・心づかい】 ●操業に配慮した賑わいの程度	【連携】 ●地元農産品の取り扱い、販売ルートの拡大サポート 【配慮・心づかい】 ●夜間照明による作物の育成への配慮	【連携】 ●環境CSR（竹林の伐採、搬出、里山・保全林の保全活動等） ●雨水の活用（散水、災害時の飲料水等）による水資源の節約 ●自然エネルギー（太陽光等）の活用 【配慮・心づかい】 ●夜間照明による生態系への配慮	【連携】 ●地産品を活かした賑わいづくり（地域のお祭り、イベント） 【配慮・心づかい】 ●排気・排水・廃棄物・騒音・悪臭等を適正に管理 ●業務用搬送車両（大型車等）等の通行時間、動線、スピードの配慮
工	【連携】 ●雇用機会 【配慮・心づかい】 ●お祭り・イベント等への参加で積極的に交流し、互いの理解を深める ●積極的な緑化、環境づくりでイメージアップを図る	【連携】 ●商品開発、マーケティングのコラボレーション 【配慮・心づかい】 ●商業地に接して緑地を配置するなど、賑わいづくりに配慮	【ゾーン内での連携】 ●協働のプロジェクトやコラボレーション 【ゾーン内での配慮・心づかい】 ●互いの操業への配慮	【連携】 ●地元農産物の加工品等の商品の開発と外部へのアピール 【配慮・心づかい】 ●夜間照明による作物の育成への配慮	【連携】 ●環境CSR（竹林の伐採、搬出、里山・保全林の保全活動等） ●雨水の活用（散水、災害時の飲料水等）による水資源の節約 ●自然エネルギー（太陽光等）の活用 【配慮・心づかい】 ●環境負荷の少ない事業活動への取り組み ●夜間照明による生態系への配慮	【連携】 ●地産品や人材を活かしたブランド商品開発 ●給食センターの多面的機能 【配慮・心づかい】 ●排煙・排気・排水・廃棄物・騒音・振動・悪臭等を適正に管理 ●業務用搬送車両（大型車等）等の通行時間、動線、スピードの配慮
農	【連携】 ●生産者の顔が見える安全安心の農産物の提供、新規住民・高齢者への会員制サービス ●農業体験、農アドバイザー ●食育、郷土料理の発信 ●交流スペース ●学校給食への農産物提供 【配慮・心づかい】 ●農作業（時間帯、農業散布、機械音等）の配慮や事前周知 ●害獣対策の電気網、罠の周知等、安全性への配慮 ●「地元産」へのこだわり	【連携】 ●直売所、出前朝市、マルシェ ●地野菜レストラン ●農イベントによる賑わいの創出 ●災害時の炊き出し 【配慮・心づかい】 ●商業者およびお客さんに対する農作業の配慮や事前周知	【連携】 ●農業・バイオ関連企業との協働（スマートアグリプロジェクト）、地域ブランド ●里山クラインガルデン（市民農園） ●社内食堂等への地元農産物の活用 【配慮・心づかい】 ●農業と工業の共存のための話し合いと、お互いへの理解。積極的交流	★農が中心と なって取り組む 【ゾーン内での連携】 ●共同出荷等の協働の営農組織 ●農産品ブランド 【ゾーン内での配慮・心づかい】 ●互いの営農への配慮	【連携】 ●水資源（雨水・溜池）の農作業利用と ●アドプトフォレスト、農と自然と人の交流会 ●岸和田丘陵ファンクラブの設立 ●農と里山ボランティアの育成 ●地域の気候を活かした農法、生態系に配慮した農法 【配慮・心づかい】 ●ため池の生態系への配慮と、水路の護岸・林縁部植生の再生	【連携】 ●地域循環の要としての役割 ●地産地消 ●岸和田丘陵ファンクラブの設立や、農と里山ボランティアの育成等の農を通したコミュニケーション ●防災農地 【配慮・心づかい】 ●トラック、農耕機等の交通安全 ●農作業や農業散布に伴う土壌・排水・廃棄物・騒音・振動・悪臭等を適正に管理
自然	【連携】 ●竹材の提供・活用（エネルギー、竹アート） ●ネイチャースクール、環境保育・学習、観察会 ●ピオトープ、牛滝川・春木川水系の小川の親水空間 ●森林浴	【連携】 ●竹材の提供・活用（竹イベント、竹アート）	【連携】 ●竹材の提供・加工（竹紙、竹細工、竹パウダー、竹炭、竹食器、竹酢、家具・インテリア、おもちゃ等） ●木質ボイラー ●ツリーハウス	【連携】 ●竹材残さの堆肥化	【ゾーン内での連携】 ●互いの自然環境、生態へ配慮した活用、イベント実施等 【ゾーン内での配慮・心づかい】 ●互いの自然環境、生態へ配慮した保全活動 ★各主体から自然環境に 対して配慮がなされる	【連携】 ●貴重種（オオタカ等）の周知と保全活動 ●観光（フクロウウォッチング、神於山緑道ツアー等） ●シンボルとしての神於山や神社・石碑等の物語、語り部の継承 【配慮・心づかい】 ●適切な保全・維持管理を行い、暮らしや営みに配慮する